

件名	H30 第 6 回湯梨浜町泊地域小さな拠点検討協議会		
日時	2019 年 2 月 14 日(木) 18:30~20:00		
場所	民宿海晴館		
出席者 (敬称略)	(委員 7 名)遠藤公章、石沼友、尾川寛信、澤志任、田嶋昭彦、坂田克、渡辺由佳 (小さな拠点検討協議会コーディネーター・Co)地域活性化伝道師 澤田廉路氏 (海の駅とまり協議会)戸羽貴広、吉村勝、氏良介 (海の駅とまりコーディネーター・Co)中小機構中国本部 今若明氏 (オブザーバー) ・ 県中部総合事務所地域振興局 山口リーダー、米原係長 ・ 湯梨浜町商工会 福本氏 ・ ホテルアーク 21 竹歳氏 ・ 地域おこし協力隊 辺隊員、鳥山隊員 (事務局) 湯梨浜町役場産業振興課 榎本係長 湯梨浜町役場みらい創造室 仙賀副町長、谷岡主事 計 21 名		
決定事項 (合意事項)			
次回までの 調整事項			
配布資料	協議会会議レジュメ、泊地域小さな拠点検討協議会提案書、基本計画(中間報告)、海の駅とまりビジョン		

1. 会長あいさつ

(会長) それではみなさん、時間になりましたので始めたいと思います。お忙しい中、どうもありがとうございます、こんばんは、お世話になります。今日は、小さな拠点検討協議会、それから海の駅協議会とふたつここ 2 年余り泊地域のために検討しておりますけど、私両方の会長をさせていただいております。いろいろとみなさんには、いろいろご意見を出していただいて、何とかここまで来ているというところがそれぞれあります。今日は両方の協議会で話、協議を進めながら、やっぱりかなり共通点があったりとかですね、目指す方向というのは、ある程度この泊地域が良くなっていくという所に目標が置いてあるので、そういう事もあって、ひとつはお互いに協議会が何をやっているかなどお互いに情報交換して、知っていただいて今後の取組みについて皆さんのご意見が交換出来たらなあと思っております。今日は最初にそれぞれ委員さん別々なので、自己紹介を兼ねて、これまで取り組んできてどう思われるのか、一言いただきながら、その後各コーディネーターの方から、これまでの成果であったり今後の取組みについて説明いただきたいと思います。

2. 協議事項

- ・ 参加者自己紹介
- ・ 小さな拠点検討協議会コーディネーターより取組説明
- ・ 海の駅とまり協議会コーディネーターより取組説明

(会長) ありがとうございます。今それぞれの協議会の内容を説明していただきました。それでは今ふたつの協議会、お聞きいただきまして、それぞれ自分の所属していない協議会はこんなことしてたんだなあという事があったかと思っておりますので、みなさんのご意見をいただきたいと思いますが、僕としても両方やりながらですね、最初小さな拠点検討協議会ではどういった施設が住民の暮らしが今不便になっている中でどういった施設が必要なのか、いろんな施設が老朽化する中でどうしても建替えの事の時期が来ているという所で、どういうものを泊の中に作ったらいいかっていう所から始まってますけど、やはり作るだけではだめで、それが持続できるようにちゃんと収益が上がるように賑わいを持たさなきゃいけないっていう事を考えれば、やはり海の駅協議会でやっているところのような仕組みがないと、拠点だけ作ってもどうしようもないんだろなあという事があって、出来るだけ早いうちに一度こういう場を設けてお互いの意見交換が出来ればなあという事で催しさせてもらいました。こちらの委員さんからどう思われたのか一言ずついただけたらと思います。

- (委員)どちらの協議会にも入ってまして、最初から関わらせてもらってるんですが、やはり外からのお客さんが来てもらうっていう事が海の駅とかそっちの方だと思いますし、小さな拠点の方は地域の生活の充実させるというところなんですけど、相反するようですが、これはやはり一緒に考えていくべきだなあと僕は思い、今日のふたつの話を聞かせてもらって、それは思いました。なので、要はここからは今まで 2 年間ぐらい、ずっとやってきた中で、それをどうやって、すり合わせてひとつにしていくか、っていう作業に入るといいますんで、そこを皆さんと一緒に考えたらなという風に思います。
- (委員)まず、小さな拠点の方では、2 年前に全集落を回らせていただいて、方針を説明し、一方で、住民の方の意見をお聞きしました。その検討を重ねて若干とかかなり大きく方向転換した中で、泊の住民の方に情報がまだ十分に伝わってないな、という風に感じておりまして、町報では小さく出てましたし、町長と語る会とか町長が説明をされましたが、なかなか伝わってないなというのがありまして、この情報を住民にももう少し伝える必要があるなと今感じております。一方で、海の駅とまり協議会の方に関しましては、泊だんだん商店が少なくなってきた中で、今年度、中小企業・小規模企業振興基本条例というのを半年で作成していただきまして、本当に小さな商店の存在価値を町にも認めていただいて、より具体的な施策を打ち出していくような条例を作ったので、一方では住民目線、一方では小規模企業目線で、その施策が作っていただけたらなあと思いがしております。以上です。
- (オブザーバー)私も最初から両方の協議会に参加していたんですが、多分、お互いのを今日初めて聞いた方は、かぶりすぎだと思っていらっしゃると思うんですけど、そもそも論がお互い違うというのが、ちょっと役場、最初説明があった方が良いのかなと、こっちの協議会はどうでこっちの協議会はどうっていうのがちゃんと最初に説明がないと分かりにくいかなあと思うのと、それが一番多分、分からないんじゃないのかなあ、今の結果だけ見ると、同じ事に関して言及しているような感じですけど、分かりにくいのかなあ、役場のそもそもどういう考えでそれぞれ立ち上げたのか、っていうのが伝わりにくいんじゃないかと思って、で、委員さんがおっしゃってたように、ここがそもそも伝わってないと地域の方にも分かりにくいかなあと思うので、先に説明した方が良くないかなあというものが、はい、あります。
- (オブザーバー)私は小さな拠点が今日で 3 回目と海の駅とまり協議会が今日で 2 回目なんですけど、私も思うのが先ほどのオブザーバーさんと一緒に、もともとどこから始まったりしているのかっていうのも私もまだわかってない部分があるので、そういうのをもう少し話し合っていくといいなっていうのと、地域の方もまだまだ分かってないとか、こういう事をやっているというのを分かってない方がいらっしゃると思いますので、そういうのをもっと広げていっていいと思います。以上です。
- (委員)小さな拠点の方で、新しく来させてもらってるので、どっからどこまでがっていうのが良く分からないんですけど、おそらく今聞いた限りでは、かなりかぶってるなあと、とってもそのなんていうんでしょうか、グラウンド・ゴルフとの兼ね合いの中で、さっき言われたようにもったいないところがたくさんあるなと本当気付きました。例えば食に関して、もっとインパクトのある物の方が、あそこにしかないよというヤツを、まず最初に開発すべきじゃないのかなと、思いました。それともうひとつは、グラウンド・ゴルフにいらっしゃる年齢層の高い方々にお金をおとしていただくような格好にすればと思うんで、グラウンド・ゴルフ施設の充実化、あれももうちょっと考えていかなければ、そこで簡単に食堂があるんですから、その時だけでも食堂がオープンできるような、何か対策がないのかなあという風に思う次第でございます。
- (委員)小さな拠点さんは 2 年間びっしり協議を重ねながら、いろんな意見を出し合ってまとめたものがあると思いますが、これからはこれを実際に行動していくっていう作業に入るといいますんですけど、早めに行動に多分移した方が、なんていうか、協議をする必要もあるんですけど、スピードアップ感っていうか、そういうのも必要かと思いました。
- (委員)事業をしている人はそのまま事業を、小さな拠点、出来るかどうか分からないんですけど、この小さな拠点の拠点が出来てからでもないんですけど、拠点を中心に広げていくっていう感じで、どうかなあと思いますけど。
- (委員)私は小さな拠点の方なんですけど、海の駅の概要を初めて知って、こういう事やってるんだなあっていう気付きしか今ないんですけど、私自身は一会社員なんで、事業者のようにリスクはとれないんですけど、こうやって事業者が集まって連携を取りながら、いろんな仕掛けや取り組みをされているという事自体は、すごい素敵だなと思うし頑張ってもらいたいのと、小さな拠点の方はいろ

いろと議論してきた中で、地元住民がここの中に入って・・・、まあそこはやっぱりいいです。まだまとまらないので。でも、がんばって設計して下さってるんだなあと思いました、はい。

(委員)海の駅の方は、観光客を増やすという事なんですかね？あとは、拠点はまちの人、ここら辺の人のケアみたいな。初めて海の駅の方を聞いてみて確かにテレビでやってのを見たんですが、鳥取県はナンバー1 なんですよね、そういうのもったいないなと思う反面、小さな拠点の方でも、こっちをがっちりやって住民の方を盛り上げたいというのがまとまりつつあるし、住民としてちょっとそっとしておいてほしいなと思うけど、お金を落としてほしいのもあるけど、保守派というか・・・。

(会長)外から人が来て、賑やかになるのが・・・。

(委員)このままでいいからって、個人的には思うから。

(委員)私は外部の人間なので、無責任な事言えないんですけど、小さな拠点というのは、中の住民の方の意向に沿った形で立ち上げるというのがいいかと思っているんですけど、今回海の駅とまり協議会は外部から人を集めようということなので、相反するところがあると思われるんです。なので、入口をどっちに、住民の方はそっちを望んでられるのかをある程度整理した方が、きちっとした物が出来るんじゃないかというか、あまりこれをふたつ、相反するものを、中途半端にというかその辺を少し聞かれてから、やったらいいんじゃないかなと。

(委員)私は海の駅に参加させてもらってたんですけど、小さな拠点の方も問題の洗い出しというか十分に出来ていると思いますし、海の駅の方も大体出て来ていて、あとは実績というか取組的な話を進めていくような時期じゃないかと。先程委員さんからあったんですけど、スケジュール的にどこが、ずーっとズルズル話し合いじゃなくて、ある程度目途を、この時期にこの辺りまでというようなスケジュール感が、そろそろ具体的に進めていく時期じゃないかなと思います。

(会長)事務局にそもそもこれはどこからやったっていう、もう一回おさらいの説明をしてもらいましょうか、簡単に。

(事務局)小さな拠点の方を説明します。この報告書の提案書ですね、2 ページを見てください。そもそも小さな拠点とはっていう事ですけど、国の方が提唱している考え方でして、集落生活圏という事を小学校単位とかで考えまして、中心となる場所、様々な機能が集まっている地域を小さな拠点エリアと考えて、周辺の集落とどう繋げていくか、で、この集落生活圏でその全体を維持していくというか担っていくというのがそもそも考え方です。こういった考え方があって、平成 28 年 8 月に、小さな拠点の委員さんを委嘱させていただきまして、スタートしました。その中で協議していただきたいのが、小さな拠点を考えていただくのがひとつと、老朽化している泊の公共施設が 4 つあります。役場の泊支所、青少年の家、中央公民館泊分館、漁村センター、それらの今後をどうしていくか、機能を小さな拠点の方に移す移さないですとか、それらの 4 つの施設をそもそもどうするのかという所を考えていただくというのをテーマにスタートしました。コーディネーターの方に説明していただいた通りずっと議論を重ねて行きまして、あと住民さんの方の説明会とアンケートも取りました。今度は A3 の資料になりますが、これは町報の中にも入れさせていただいて、泊地域のみなさんにはお配りしているものです。協議会の提案書という事で、昨年 5 月に町の方に提出していただきました。中ページを見ていただくと、拠点に必要な機能という事で、役場の機能、コミュニティの出来る機能、店舗と書いてます、買い物機能が必要んじゃないかと、拠点の場所としては第一候補として泊漁港内、第二候補として泊支所周辺、津波と防災上の懸念がある場合という風に提案していただきました。最初に申し上げた、公共施設も既存施設についてというところで右にも書いてますけど、こちらも提案していただきまして、泊支所、役場機能を継続させて建物は改修で使ってはどうでしょうか、中央公民館泊分館は、公民館としての機能は新しく作る拠点には移動させずに、今の場所で維持させると、建物自体は老朽化しているので、将来的には解体して新築したらどうでしょうかという提案をいただいています。3 つ目、漁村センターというのは、主には泊 1 区から 6 区ですね、特に 3、4 区の方が中心に使っていただいているんですけど、コミュニティ機能として使ってるんですけども、コミュニティ機能は新拠点の方に移行して、建物はもう老朽化してますし、耐震もしてませんし解体したらどうでしょうか、という提案をいただいています。最後に青少年の家については、主に宿泊といいますか、部活とかで使っているケースが多いんですけど、宿泊の機能は拠点には移動させず、これも老朽化が進んでますので、建物は将来解体したらどうかという提案をいただきました。下のその他というところで、人口減少等を食い止めるために新築できるような宅地造成が、定住出来るような町営住宅の造成を強く要望しますという形で提案を、小さな拠点協議会からいただいているという状況です。これを受けて、役場の内部でも、支所と泊分館、青少年の家、漁村センターのそれぞれの所管課がこの意見を受けて協議を進めてい

ると、その中で店舗という部分はどうしても民間といいますか、住民の方々が担っていただかないといけない部分ですので、ここをどうしていかうかというところを最近を中心にやっていただいでいて、コーディネーターさんの報告書に結びついていくという形になっています。おおそよそういった流れです。

(会長)ありがとうございます。では海の駅の方の説明をお願いします。

(事務局)海の駅のまず始まりは、泊に賑わいを取り戻そうという所から始まっています。先程コーディネーターさんに説明いただいたんですけど、高齢化が進んで人口が減少しています、商店は減って、ってような状況の中で、かつては泊にも海水浴場があって大変賑わっていたと伺っています。そういった賑わいを取り戻すために外から人を招いて、招くためにはどうしようかという事を考えるための協議会です。ただひとつの事業者さんで考えても出来ない事なので、泊・石脇にある事業者さんに集まっていただいてスタートしました。他所と一緒にの事をしてダメなので、泊地域固有の物を、どういったものがあるんだっていう洗い出しから始めました。みんなで泊地域を歩いて、どういった魅力があるのかという事を洗い出して、それをまとめた物が先ほど資料にありました、資料の 2 ページです。みなさんに歩いていただいて実際に見て触れていただいて、集めた物がこちらです。こういった泊固有の魅力がある、特有の魅力だという事で集めたものを組合せて、どういった事に取り組んでいくべきかという事をまとめたのが、4 ページ以降になっています。港・丘・浜の 3 つのエリアに分けて、それぞれの魅力を繋いで、資源を繋いで事業化に取り組むという事、今検討を進めています。なので、泊に賑わいを取り戻すという観点から始まったものになっています。以上です。

(会長)私はどちらの会長もさせていただいてますので、立ち上がりは全く違って、別のスタンスで入ってましたけど、1 年くらい過ぎた頃からですか、目標が同じ方向に向かって、要は地元の住民がどうやって幸せに暮らしていけるかという所の方向に向かっていけば、ある程度、みなさんの多分意見のありました、重なってくるころはあるんだなあという意見だったと思います。アドバイザーの方々もそれぞれ聞かれて、もし感想なりご意見があればと思いますけど。

(Co)さっき委員さんがおっしゃったことで、内部の人間という部分で、矛盾するとか合わないかもしれないという話があったんですけど、例えば今僕ちょっと思ったのは、島根県の海士町で島根は常識さざえカレーっていうじゃないですか、地域の住人はカレーライスにさざえを入れて食べるのは当たり前だと、ところが外から見たら珍しい事だと、それは食べてみたいと、そういうものが地域の中の住民から出てきた発想とそれを第三者的に外から見た人間と考えどういう魅力を感じるかという事がパチッとあった時に、それが新しい製品なんかになってブレイクするんじゃないかと、私は話を聞きながら海士の事を思いました。だからそういう事が見つけられたらちょうどいいのかなあと。だから、両方から出来た案の中で結びつきそう物があればそれを上手く結び付けて、それを内からも外からも両方から、合わせる事が出来れば一番理想的かなあと思いました。

(会長)ありがとうございます。

(Co)私の方の視点でいくつかお話の合った中で、観光という話がありましたけど、泊地区の資源なり地勢を見た時に観光は難しいなっていうのが私の印象なんです。観光は難しい、でも交流は出来るなっていう所はあります。交流です。交流は人と人の顔が見えるのが交流。観光は人の顔が見えません。バスがどーんと来たり、どーんと来るような。交流するという事は相手と相手を思いやるから交流なんですね。そういう意味からすると、暮らしをベースにして、暮らしが損なわれるような事になってはいけないと思います。その暮らし、例えば景観を守らなければならないし、ごみは捨てちゃいけないし、そういうルールありますよね、そういう景観なり暮らしを守る、それが出来る人はやはり訪れるところだし、ここの地域を愛してもらえばいいんじゃないかなと思います。そういう交流、例えば海の体験もそうだし、グラウンド・ゴルフもそうかもしれない、ただ大事に、それが持続可能になるんじゃないかなと、交流というキーワードを大事にされていくと、さっき先生がおっしゃったふたつの良いところを上手く折り合わせながら、新しい価値を作ることが出来るんじゃないかなと思いますので、そういう風に捉えていけると、先が見えるような気がします。

(会長)はい、ありがとうございます。では、副町長、もし地方創生の方で何かありましたら、長年この泊の賑やかな所から、淋しい所までずっと見とられて。

(事務局)では、私の方から、みなさんのご意見を伺いましてもともとこの泊地域は過疎地域、もう十数年たっていて、大きな目標として過疎からの脱却を考えた時に、当然皆さんが移住定住、それと入込客の問題、賑わいをどうするのかという問題、これは実は今に始まった事ではなくて、もともとの旧の泊時代からのテーマだったと思います。そこの中には移住定住がそのころ空き家ではなくて、

新たな宅地造成を中心とした、宅地開発、あるいは新しい施設を作っていく、あるいは新しい何々を作っていく、そこに定住人口を増やしていく大きな目標だったんだろうなと思っております。観光的なものでいけば、グラウンド・ゴルフも今の潮風の丘がそうなのでしょうし、そこに遊具施設なり、あるいはスーパースライダーの複合的な施設として、セットしていったのもそうなのでしょう、時代が変わってきて合併して既に 15 年近くも経ってきて、今の泊の状態を考えた時に、じゃあ今どうなんだよと考えた時に、なかなか手当が出来ないようになってる、出来ないようになってるから、行政として投げてるんじゃないかと、そこにどうしていくんだよってした時にたまたま地方創生という国の事業が入ってきたので、創生だけじゃだめだから、創生事業を過疎の事業だけじゃなくて、創生の事業を入れながらやっついこうやというのが今のふたつの方向に進んでいるのかなと、実はそういう事を話し合う場所が、じゃあ、この十数年間あったかっというとは実は全然してないんですよ。泊地域のためにじゃあどうしようかという議論は。これだけの内部の方外部の方あるいはアドバイザーを含めて、議論していくというのは今まで聞いた事がないし、やってなかったと思っています。それをたまたま創生に合わせて、それぞれの事業を内部的に泊町民のために、あるいは泊に来る客を増やしていく、そこで商売をされている方々の賑わいを取り戻そうという事で、別々にやってたんですけど、それはどこかでやって違和感があるというのを私も感じてまして、同じことの取組みをやっついけば、もう少し相乗効果で上がってくる部分、あるいは必要でない部分が出てくる事に気づいたので、会長に常々同じことをしているんだったらひとつに考えたらいかがですかと提案をいただいたので、こういう会にはなっただんですけど、行政の中の不必要な部分というのは、それはきっと行政が主導でどっかがやらなくてはいけない切っていく部分なんですけど、そればかりしてもきっと良くならない、やはりそこには新しい物を組み立てながら、その組み立てられるところは今の時代ではないのかなという気もしたりしています。こういう時代ですからなかなか投資は出来ないと言えばそうなのかもしれませんが、いま投資しないと、きっとこの泊地域というのは、何も良くなっていかない。だったら少しでもみんなと一緒にあって、投資が出来るような物を考えていくという事は私は必要だと思ってますし、それによってどっかでゴサインができれば、私たちも力を一生懸命注いで、やっていきたいと思っております。

(会長)はい、ありがとうございます。今日色々ご意見いただいて、これだけそれぞれの協議会のいろいろなメンバー、いい方がおられて、これが今動いている状態です。これから実際進めていく上で、さっき副町長が言われた、投資は行政がしていただけるかもしれませんが、動かすのは地元のメンバーであったり、ほんとのエンジンになるのは、こういった協議会だったり、住民が中心にならないとやっぱりこれは動いていかないだろうし、継続できないと思ってます。出来れば新年度くらいから、さっき皆さんは重なったところがある、逆に別の委員さんは切り口が違うんだからすり合わせがちゃんと出来ないといけないという意味も含めて、出来ればひとつのまとまった協議会として、協議が出来ればなあと思っておりますけど、そのあたりざくばらんにご意見があれば言っただけならなあと思うんですけども、別々で動いていくよりは、両方見ながら、一つの協議会の中で進めていく時期なのかなあ、動いていく時期なのかなあという気もするので、その辺りそれぞれご意見をいただけたらなあと思うんですけど。

(Co)小さな拠点の方で、ハコを作ってハコを運営していこうと思ったら、それが大事で地域の中でどういう風にしたいかという、それを主体的にやる人が、どういう風に使いたい、どういう施設としてあるべきかという事を考えながら、運営に携わっていただきたい。そうしないとハコモノを作っても意味がない、魂を入れるって事はないといけないんで、そう言った事でここで運営を支えるというか、主体的に運営をやりたいというような人に関してほしいんです。そうなれば、計画も若干変わってくるだろうし、プランも変わってくる可能性もあるけれど、そんなのは抜きにして、やりたいって思う人には是非とも参加してほしいなと思います。

(会長)分かりました、ありがとうございます。確かに運営自体は役場がやってくれるわけではなくて、ちゃんとした組織を作らなきゃいけないと思ってますので、そういう意味ではほぼほぼ拠点の内容的な事や位置的な事はほぼ決まってきた、次は運営も含めて海の駅協議会とひとつの協議会になっていく方が僕としてはいいのかなあと常々思ってたんで、こういう場を持たせていただいたんですけど。どうでしょうか、ご意見があれば、両協議会兼務の委員さんとはこういう話もしてたんですけど、そんなに気兼ねなく・・・

(事務局)今町で同じように困っていて松崎の方で、ゆるりん館、どれみっというこれは大元は実は地域包括ケアを入れるためにどうしたらいいかという事がひとつあって、もうひとつは松崎地域の中で A コープが撤退したという事から、撤退して初めて地域の方がどこでものを買うんだという事から、

じゃあそれを含めて町の方で、施設を建てた、建てたものは建物ですけど今その運営は、まちづくり会社という会社がやっております。運営母体はそれでいいんでしょうけれども、どういう人たちを対象にして、どういう形の中で、その人たちを含めて運営できるかというのは、きっとそのそれぞれの地域の方々がその場所を知っていただかないと出来ないと思っております。例えば今回コーディネーターさんの方に描いていただいた画にしても、じゃあなぜここがって思う時に実はこの場所ってというのは、泊の港ってというのは町全体の中でみんなが分かっている、で、もうひとつそこで、いろんな施設がありますが、例えば漁港内の飲食店もそうなんでしょうし、もうひとつここにあった時に店舗もあります。実は店舗が毎週しているときには、けっこう人が来てて、なぜ、なぜ来ていたかっていうと、そこからあがった魚を販売していたからという、大きな物があつたんですけど、実は私も利用していた一人なんですけど。実はそこからなかなかあがる魚が常時ないし、定期的にもなかなかそこで販売できないという事で、まあ非常に少ないですけど、ただしその場所に店舗があるっていう事は実は町の方結構ご存じな訳です。実はゆるりん館の方、松崎の方の食堂ってどっちの方がって言われたら、きっと時間設定からいけば飲食店の方が、人が多いのかなと。それはただ単に食堂がある、ないだけの話ではなくてそこを利用される方は、逆に外からの方あるいは、その辺の周辺におられる方が利用するからという、食堂ってというのは周辺 500 メートルの中の家におられる方が毎日来られる訳ないんで、逆の発想で外から入られる方が、見てたら夫婦の方とかあるいは若い人たちが入ってくるということは、きっとそうなんだろうなという、近所の方も利用するけれど、周りから来られる方も結構そこを利用されている、やはりそういう運用を考えていくのに、いろんなものを誰かが欲しいという品を揃えていくというのは、泊の中では今の場所で描かれた場所が非常にいいのかなあと、またそれをじゃあ誰がするのかという、松崎の場合は、まちづくり会社なんですけど、きっと同じ母体でしていってしまうと、泊の魅力が無くなってしまいます。泊の魅力は泊の中で、自分たちでものを捌いていく消費していくっていう事が一番大事なのかなあと今思っておりますので、自分たちの中で運営していくあるいは、消費してく様なシステムができれば、長続きしていきだらうし、赤字にならないようにものが作れていくような気がしておるところですけど、そこに施設の関係とかいろいろなものを町の方がどういう風にフォローしていくかという事は、これは積極的に参画させていただきたいという風に思っております。

(会長)ありがとうございます。今泊地区に商店が二つありますけど、ひとつの店主さんはもう 80 代になります。別の店主さんもおいくつくらいでしたっけ？ 70 代中盤ですよ、例えば 5 年先 10 年先を見た時、このままほっとけばお店が無くなって、じゃあやろうかっていう人は今の状況を考えるとないと思います。お店をオープンして収益が上がるかっていうとなかなか一個人の力だと無理だと思いますので、こういった協議会や住民がチームになってやらなとイケない時期が来てるので、なんとか事業所であったり、海の駅のシステムで人を呼びこまないと、このまま待ってたら無くなっちゃうんだらうなって思います。1 と 0 だと全然違います。0 になったら、本当に大変な事だと思いますので、是非この協議会ふたつがひとつになりながらこれから進めていけたらなと思っておりますけど、どうでしょうみなさん、今までのように別々がいいよっていう方があれば、それでいいですし、そうでなければ、1 本でこれから事業を考えていくという事で、進めていきたいなと思います、会長として。

(Co) その意見に賛成ですが、実はこの事業の一環で高知県に行ってきました。それで、過疎地域で困っている、四万十川の四万十「おかみさん市」というのを見てきたんですよ。そうすると集落ごとのおかみさんが毎日は大変なんで、交代交代で食堂を運営しながら、地域の物を売ってるんです。大儲けはしない、でも月 5 万円くらいお小遣いが入る、それで十分だと、で地域のごはんは統一的にきな粉か何か入っている何とか飯みたいなものを作っておいて、ここでいうと海鮮どんぶりみたいなものを出しておけばいいので、地域の物を、そういうものも出しつつ、高知なんで他のところを見に行ったらカツオのたたきがうってあつたり、魚がうってあつたりこも同じような事で、泊地区の特産を、さっきの拠点の直売コーナーでみんなが順番に売る、毎日では出せなくても週を決めて、週に 1 回とか 2 回とか、で必ずここで店をやっているということで開けば、やったりやらなかったり、閉まってるという事はダメなんです、行ったら閉まっちゃった「もう行かんわ」、っていう話になったらいけない。一人でずっとやるのが大変だったら、チームを組んだらいいので、チームで運営していく方法もひとつの方法として必要なあとだと思います。そういった形が出来ればいいかなあとと思います。

(会長)分かりました。今日は特に一番大事なのは今後どういう組織で、協議会でやっていくかという所を、みなさんにおはかりしたかったので、これからひとつで進めていく

事に特に反対がなければ、出来れば新年度くらいからそういった進行でやらせていただきたいと思います。いかがでしょうか？どうしても別の方が良いよという方がいらっしゃったら今、ハッキリ言っというてもらった方が良いでしょう。

(Co)一緒にやった方が良いでしょう。

(会長)分かりました、ではそういう事で。もうお一人のコーディネーターさんはなにか？

(Co)今日一回だけなので、お互いによく情報共有、理解して、進め方をしっかり整理していけば。方向をひとつにしていくこれが大事な事だ。

(会長)集まる時には絞った形でちゃんと明確に、議題も決めていってからしないとぼやけたらいけないので。

(事務局)今後海の駅は何を目的にどういうことをやられる計画なんですかね？

(会長)やりたいのはまだまだ商品作りが出来てないので、この地域の。

(事務局)商品作りを中心に？

(会長)事業者と連携して。

(委員)ハードじゃないですよ。

(事務局)ハードじゃないですよ。

(Co)ハードではないです。基本的に狙いはさっき賑わいってというのがありましたけど、やっぱり人口はずっと減って来てるんで、泊地域で、そうすると何かしら持続性を作ろうと思ったら、稼ぐ仕組みを作っていくといけないというのがあります。ずっと公的な資金が入ってくれば別ですけど、やはり最後には地元の方が住民で運営していくとなると、何かしら売り上げをたてないといけないとなると、その中で交流人口を捉えていくためには、いろんな施設と連携しながら呼び込んでくるという事を、そしてきちっと売り上げに繋げていくという事が、いま何人か事業者の方いらっしゃいますけど、そこに結果として賑わいを作るという狙いといえば狙いかなと。

(事務局)今海の駅は実は、今年度までの事業、これは創生関係の話なので、大きな話別の話になるかもしれないんですけど、基本的にはある程度 1 回目の区切りが出てきて、実際今の状況を見ていると拠点もそうなんですけど、計画は出来て協議会の中では出来たんですけど、実態としてやっていく事は、そこには行政が絡んでくるところがたくさんある。海の駅はどちらかというと、事業者のみなさんが考えられて立ち上げたものをどこがフォローして一緒になっていくかという事だと思っておるんです。なかなかそこを海の駅協議会だけで、立ち上げて投資しようというのはなかなか難しい。どちらも一緒に協議会だけで物を立ち上げて次のステップに行かないという所があるので、その辺の事をひとつになったので協議会の時に、お互いのひとつをしっかりとっていく必要がある。

(Co)あると思います。組織を作るという事は、事業を作るという事なんで、事業を作るって事は経営をするって事になりますんでね。そうすると事業計画というものは立てないと、じゃあ商品開発をして売るんだったら、何をどのくらい売るとかかってすごく大事なお話になってくるのかなと、結果として続けるためにはそれが無いとゴールが見えなくなってしまいます。

(事務局)その辺をしっかりと認識しながら一本化していくという事は私は大事だと思う。

(会長)協議会でいろんな意見を取入れながら、その中で実働のエンジンになれる組織づくりも含めて、やっぱり必要だなと思ってます、そこは。

(事務局)海の駅は、自分一人でも立ち上げられるメンバーが揃ってられるんですね、自分だけで物を考えて計画して立ち上げて運営できるメンバーが揃ってる、で片方のメンバーはどちらかというと行政がお願いしたメンバーですので、協議会の中でこういうものがあつたらいいのになという物語で、中を具現化していくような組織なんで、そこが一緒になった時にこういう事をすれば泊地域はもっと良くなるよという所が見えてくればいいのになという気がします。そういうのをもし今年度新しい協議会を立ち上げられる時には、そういう形で進んでいただけたらなと思います。

(会長)分かりました。じゃあ、新年度、やり方を事務局とですね、詰めてまたしますけど、基本的には、同じ目線の中で考えていく、泊のためにという事で行きたいと思います。よろしいでしょうか。それでは最後に県の方からおいいただきました、一言ずつでも、御三方いただけたらと思います。

(オブザーバー)小さな拠点に関してなんですけど、先ほど来、議論がありましたけど、事務局の方がご説明されましたけど、国の方の施策からスタートしてるんですけど、県の方も推進して取り組んでいる状況なんですけど、今現在県下で小さな拠点という取組は 18 か所、今ございます。年度内にはあと、6 つほど出来る予定になっております。泊、湯梨浜を含めた中部エリアでは、残念ながら 1/18、まだ 1 か所しか出来ておりません。数ではないと思いますが、こちらの湯梨浜の協議会ですね、進んでいただくとおっしゃるんですけど、小さな拠点のコンセプトと申しますか、もとも

とはですね、支え合いですとか、安心して暮らし続けられる、というようなキーワード、コンセプトがございまして。ですから、先ほどございましたように、そうは言っても継続という事がなかなか大変な世の中ですので、そうするには支え合いだけでは、なかなか進んでいけないような状況だと思っております。ボランティア、ボラントリイだけではなかなか物事は進まないだろうなと思っておりますので、そういった中でやはりビジネス的な考え方も必要になってくるなあとと思っております。そういった所で今回来年度から、ふたつの組織が合流されるというのはいい方向性かなと思っております。県の方でもこの小さな拠点につきましては、わずかではありますけど、制度を設けておりますので活用していただけたらと思っております。以上です。

(会長)ありがとうございます。

(オブザーバー)今いろいろ聞かせていただいた中で、小さな拠点というのはやはり住民主体がメインになってくると思いますが、海の駅構想はやはり事業者間でそれぞれが連携をとられるところで、それが拠点施設を介して、相互間でメリットのあるような、それぞれにメリットがあるような関り方をされるのが一番理想なのかなあと、例えば住民側にとっても先ほど、民泊とかゲストハウスのお話もありました、空き家対策を地域全体で考えられるような仕組みづくりが出来たりすると、入客なりインバウンド対応も可能かと思っておりますし、その辺りの手法、例えば、そういったノウハウのある事業者さんからいただきながら、地域で運営できるような仕組みがもし出来れば、また地域の中での持続可能な取り組みに繋がっていくのかなあって、ちょっと感じながら、非常に今後の展望といいますか、期待的なものではなくて、光が見えてくるようなイメージも持っていましたので、良い事ばかりはなかなかないと思っておりますけど、そう言った事で盛り上げていただくと、大変良いのかなあという風に感じているところです。今後少しずつではありますけど、体制の中でいろいろと何かしら、いろんなところから情報が入ってくるところでもありますので、そういった所でご支援させていただけたらと思っております。

(会長)ありがとうございます。引続きご支援よろしく申し上げます。最後に商工会からおいでいただけてますけど、一言だけ。

(オブザーバー)私は海の駅の方に出させていただきますけど、商工会としては事業所の支援、それから、地域の振興と両輪でやっておりますので、人がいないと事業所が事業が成り立たないということもありますし、その逆もあるという所で、側面的な支援になるかとは思いますが、我々商工会も支援をしていきたいと思っておりますので、今後ともよろしく申し上げます。

(会長)ありがとうございます。それでは、協議会の方は以上で閉めさせていただきます。よろしいでしょうか。みなさまどうもありがとうございました。

(全員)お疲れ様でした。